

助成者	熱田 典子	活動期間	2021年4月～2024年3月 活動中
所属機関	公益社団法人 アジア協会アジア友の会	職名	副事務局長

持続可能な里山地域づくりに向け、バイオガスプラント設置による有機肥料生産から動物糞の適用利用システムと、ゴミ分別によるゴミのリサイクルシステム導入から資源循環をめざした地域環境システム形成活動

【活動場所】 ネパール シンドウパルチョーク郡 インドラワティ村

【事業目的】 ネパール山村の唯一のエネルギー源である森林の過伐採へ歯止めをかけるため、当村ではバイオプラント導入による自然保護活動を実施してこれまで成果を上げてきた。そこから当村を日本の里山をイメージした循環型農業を実施するモデル地域とする構想となり、その一環として本事業は地域の課題であるゴミ問題に焦点を当て活動を展開する。地域住民全員がゴミ問題を真剣に受け止め、ゴミの分別システム導入による住民の意識改善をおこない、集落毎にゴミステーションの導入を図る。

ゴミ処理協議の様子



【活動内容】

- ① 学生の環境リーダー育成：10地区内の3校で講習会実施（1年目）
- ② 地域ゴミ委員会づくり：ゴミ収集場設置6地区で講習会実施
- ③ ゴミステーション設置およびゴミ研修：58基設置（2年目実績） ゴミ分別研修
- ④ バイオガスプラント設置および設置セミナー：計40基設置、セミナー6回開催予定

【活動状況】

1年目はコロナの影響により学校も閉鎖され進捗がかなり遅れた。規制緩和後も経済活動や学力回復など順調な活動再開とはならなかったが、ゴミステーションの評判が地域に広がり、集落ごとにゴミ収集と処理が行なわれ、各所で自ら焼却活動を行う習慣が出来上がった。但し、家周辺のゴミは減ったものの、集落のない場所への廃棄ゴミはまだ多くあり、課題が残る。また「ゴミ」を「資源」として考え対応できるようにすることが最終目的であり、最終年度はケーススタディの紹介を交えて、それぞれの課題へ対応案をつくることができるよう促していく。バイオガスプラント設置については、家畜である動物のし尿の有効利用への理解が深まり、農業への活用へ繋がっている。

バイオガスプラントセミナー

